

「私と稲門会」

静岡稲門会

副会長
(旧志太榛原稲門会 幹事長)

立石 智彦さん (79年 商学部卒)



昭和54年商学部卒の立石です。自分は、昭和31年に藤枝の地に生まれ、地元小学校・中学校を卒業しその後、焼津の高校に進学したのちに早稲田大学商学部に進学させていただきました。

その後就職にあたっては自分が農家の長男ということ共に、大学進学するに当たって親との約束(必ず地元に戻ってくる)もあり地元清水銀行に就職させていただきました。

当時の清水銀行の頭取は佐々木哲雄氏、専務は杉山公一氏ということで、お二人とも稲門会の先輩でありました。稲門会については、銀行内と当時の清水地区の清水稲門会、その後銀行の配属で呉服町の静岡支店に配属されたことで当時の静岡稲門会にも所属させて

いただきました。その後平成16年に志太榛原稲門会が設立され、そちらにも所属することになりました。



志太榛原稲門会設立総会 平成16年11月23日 於藤枝市青木小学校

また、現在でもお世話になっておられる稲門会の代表も早稲田大学の先輩でもあります。というわけで、今思えば自分の人生早稲田とは縁を切っても切れない縁になっていると自分でも感じるところでもあります。

また、静岡県稲門祭についてですが、平成27年(15年)6月20日に焼津市のホテルアンビア松風閣にて主管・静岡県中部校友会、幹事・志太榛原稲門会担当で行われました。当日は170名の方に参加いただき大変盛り上がったのも記憶に残っております。

そして、一昨年9年ぶりに志太榛原地区の当番が回って来て準備もさせていただきましたが、ご存じの通り台風の為急遽中止になってしまいました。幹事としては実行できなかったことが残念でたまりません。

今回、静岡稲門会に仲間入りさせていただいた関係で、今後も静岡稲門会

活動にも積極的に参加させていただこうと思っておりますので、引き続き今後ともよろしくお願いいたします。

「静岡で見つけた次の景色」

株式会社MarkPPT代表取締役(CEO)

佐々木 皇太さん (16年 法学部卒)



はじめて静岡駅に降り立ったのは、24年9月7日のことでした。その時点では、まさか自分がこの街で事業をし、日々通うようになることが夢にも思っていまませんでした。

きっかけは、ヘラクレスオオカブトの養殖場をM&Aするという少し予想外のご縁でした。品川から新幹線ひかりでわずか50分。驚くほど近いのに、駅前の空気は柔らかく、「ここには何かがある」と胸が高鳴りました。

そこからご縁は次々と繋がり、静岡市に拠点を構え、障害福祉サービスにも挑戦することに。振り返れば

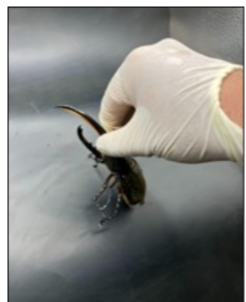
私を支えてくれたのは、ひとえに人の温かみでした。

静岡市東京事務所主催の交流会がきっかけで静岡稲門会の皆さまにも繋いでいただき、気づけば多くの方に助けられ、事業が少しずつ輪郭を帯びてきました。その積み重ねの一つひとつが、この街で挑戦する意味を教えてください。

平成初期生まれの私には、どこか昭和の残り香を感じる景色に懐かしさを覚えるところがあります。かつて祖母の家で過ごした時間の名残のように、レトロな飲食店が並ぶ静岡ゴールデン横丁の灯りを見ると、思わず足を止めたくなる。そんな場所があることも、静岡の魅力だと感じています。行政との距離の近さ、まだ伸びしろを残す市場。その余白のすべてが、この地域の懐の深さを物語っています。

外から来た私を、まるで昔からの仲間のように迎え入れてくれた静岡。だから今度は、この街の未来をもつくる一員でありたい。

ささやかでも確かな灯火を、この静岡の地に灯していきたい。強くそう思っています。



JR清水駅周辺について、'25年は何かと話題が多い年でした。

みなと口(東口)の再開発は、98年に清水テルサ(静岡市東部勤労者福祉センター)のオープン、12年にマリナート(静岡市清水文化会館)のオープンと、ゆつたりとした歩みを進めてきましたが、25年は清水さくら病院のオープン、清水魚市場河岸の市新しいちば館のオープン、駿河湾フェリーの清水港乗り場の移転オープンと進み、みなとまち清水の新しい顔が見えつつあります。

さらに新スタジアム、新清水庁舎の建設候補地として、今後の進展に期待が高まります。

静岡のまちは、人口動態・少子高齢化を踏まえてこれからも大きく変化していくと思われ、静岡出身で今現在静岡に住まわれない方も、生まれ育った静岡への郷土愛を持ち続けていただけるような、新しいさと懐かしさが感じられるまちづくりであって欲しい。

静岡に住む身としては、シビックプライドを持ち、地域貢献に主体的積極的に取り組んでいきたいと思っています。

「首長を経験した 上での郷土の魅力」

東海大学政治経済学部客員教授

(前静岡市長/早稲田大学 商議員)

田辺 信宏さん (85年 政経学部卒)



静岡市長を経験させて頂いたのだから、静岡の魅力はいくらでも語る事ができる。

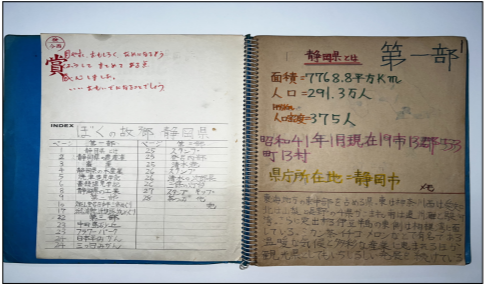
さてどうしようと思案していたら72年、私が小学校五年生の時に自由研究で取り組んだアルバムのことを思い出した。先日引越した際に押入れの奥底から出てきたスクラップブック。表紙に「ぼくの故郷 静岡県」とある。

亡父が静岡銀行に入行、若い頃は異動が多かった。東京勤務を命ぜられ、それに伴い私は港区立本村小学校に入学した。東京の真ん中、高級住宅地で名高い麻布で過ごしながらも、ふるさと静岡への思いが殊更強かった。

それ故か、クラスの友達に故郷の魅力を大いに自慢してやろうと思いつき、静岡についてのアルバムづくりを自由研究の題材にした。

夏休みを利用して単独現地調査を敢行。完成したレポートのページをめくると、多くの写真や地図を交えて静岡の魅力懸命に伝えている。弥生時代から稲作を始めた登呂遺跡の先進性を語り、一五九段を上つて、久能山東照宮を参拝、その由緒を紹介している。おまけに、落成直後の静岡最大の高さを誇った静岡新聞新社屋の写真まで載せてあるではないか(笑)。

畢竟、静岡の魅力とは幾千万の先人たちが脈々と受け継がれてきた「悠久の歴史」そのものにあるのだと思う。



「みなとまち清水の新しい顔」

静岡稲門会 副会長(早稲田大学 商議員)
株式会社清水銀行 取締役監督等委員

藪崎 文敏さん (85年 商学部卒)



自由研究からはや半世紀、まさか私が静岡市長になった人生の不思議と僥倖を今、ひしひしと噛みしめている。

稲門はじめ多くの先輩との出会いの賜物だと感謝している。だからこそ、昔の私のように未来を担う子ども達には「静岡に生まれ育ってよかった」と誇りを感じてほしい。

そんな願いを抱いて三年前に開館したのが「静岡市歴史博物館」。

ぜひ一度、お孫さんなどご家族を連れてこ来館あれ。